

北代縄文通信

竪穴住居と広場の柵を修理しました！

竪穴住居の修理工事 平成22年度から継続している復元建物の修理工事として、6年目となる平成27年度は第13号住居（土屋根竪穴住居）の部分修理を行いました。平成15年度の第13号住居の修理では腐朽した垂木や小舞を取り替える必要があったため、土屋根を解体して、屋根土の下に防水シート、さらにその下に調湿建材を敷設し、雨漏り対策と湿度調整機能を加えました。また、新しくした垂木材（クリ丸太材）の根元にも防水シートを巻きつけ、材の根元が屋根土と直接触れないようにしました。

上記の対策が効果を発揮し、11年以上経過した現在も当該部分がほぼ健全だったため、平成27年度は土屋根を解体せずに、土間・腰壁や透水管周囲に第13号



修理工事前（外観）

出入口周辺および小屋根の劣化



修理工事前（内観）

土間および腰壁の亀裂（地下水等流入）



修理工事前（支柱基部）

地下水等で柔らかくなった木材表面が腐朽し、昆虫による被害も加わった



土間・腰壁既存土除却

盛土保存された史跡の保護に支障を来たさない範囲内で除却し、改良に備えた



改良策① 地下水の流入防止策

防湿シートを敷設した支柱の防腐対策
(厚さ 0.2mm の防湿シート多重敷き)



改良策② 排水機能の向上策

透水管の周りを従来の砂から砂利に変更し、浸透した雨水を早期に排水



改良策③ 腰壁の湿度調整機能向上策

特殊素材を腰壁に塗り、叩き土間、屋根土下の調湿建材との相乗効果で機能向上



修理を終えた第 13 号住居

赤土叩き仕上げとした出入口は表面排水性能が向上し、雨水は透水管経由で早期排水

住居（複製）と第 1 号住居（複製）と同様の対策（改良策①・②・③）を講じました。これまでの検討や施工、経過観察から確立した長寿命化改修策で、難工事ながら屋根を解体しないで長寿命化改修を行う施工法も確立できました。

木柵の修理工事 広場では縄文時代のロマンを体感いただくため、富山県小矢部市桜町遺跡出土木材をモチーフとした木柵を設置してきました。しかしながら長年の間に支柱が傷み、柵の強度も低下してきました。このため、柵としての安全性を重視し、劣化した部分を金属の柵に更新しました。



木柵から更新した金属製横断防止柵（右側の写真奥は木柵）

北陸から関西へと古きを探訪

安部 行雄

北代縄文広場ボランティアの会は、平成27年10月29日(木)～30日(金)の2日間、石川県から大阪・京都まで欲張りの研修旅行に行ってきました。参加者は12名(男性9名、女性3名)の少数でしたが、全員元気で無事日程をこなすことができました。ハッピー！

まずは、①「小松市埋蔵文化財センター」へ。入るとすぐの展示室では、多くの埴輪の方々(人物埴輪)が我々を迎えてくれたのには驚きでした。北陸新幹線は今年3月に金沢まで開通したばかりですが、はるか弥生時代にもこのルートは文化交流に大きな役割を果たしていたと学芸員から案内を受け、感激しました。2階では職員の方々による出土品の修復作業などを拝見させていただきました。勾玉づくり体験や組ひも体験などができる古代たいけんルームなどもあり、1市の施設としては大変立派だと私は感じました。

小松ICから敦賀に向かう。敦賀市内でお昼をとってから、②「敦賀・気比神宮」へ赴く。この神社の境内入口にある大鳥居は高さ11mもあり、わが国の三大木造鳥居とのこと。神社本殿の建立は大宝2年(702年)と伝えられており(現存建物は戦後の再建)、皇室の祖先神を祭る社なので神宮と称されているとのことでした。ガイドの牧野さんによると、敦賀は朝鮮語が由来だとのこと。朝鮮から渡来された角鹿(ツヌガ)さんより→敦賀(つるが)が生まれたらしい。なるほど境内の端にツヌガアラシトを祭る角鹿神社が鎮座しておられたので、ここにも深く参拝させていただきました。なお“若狭”も朝鮮語由来とのこと。カムサハムニダ！

次は、八日市ICで下りて③「滋賀県立安土城考古博物館」へと入る。近江八幡市安土町に立地しており、“近江風土記の丘”の中核施設として平成4年に開館されたとのこと。安土城を築いた織田信長についての展示などや、弥生時代のおおきな銅鐸なども展示されており、滋賀県の歴史のすべてが



福井県敦賀市気比神社境内の大鳥居

学べる工夫がされているたいへん豪華な施設でした。

当日の泊まりはびわこ温泉で、琵琶湖を東に見るホテルだった。夕食の宴会にはカラオケがセットされており、ラッキー！ 私こと川中美幸の“艶冶な気分”などで腹式呼吸をさせていただく。バスから見た山々には紅葉が始まっていたのに、なぜか皆で“青い山脈”を合唱してメとなる。

30日(金)の早朝、琵琶湖の東からの御来光を仰ぐ。確か6:20ごろだった。当日の研修の始まりは④「**大津市歴史博物館**」でした。絵画、彫刻、歴史資料など数多くの文化財を収集・保管、調査研究し、広く公開するのを目的として平成2年に開館されたとのこと。ところで、大津市は琵琶湖の西南岸に位置し、縄文時代から人びとが住み着いた地で、特に天智天皇の近江大津宮遷都によって、日本の歴史の表舞台に登場してから1300年以上の歴史を有する古都だとのこと。学芸員の解説を有り難く拝聴させていただく。売店で私こと“近江八景”の絵ハガキを買って、幸せいっぱいになる。

次はなんと大阪の高槻市へと車が進む。⑤「**今城塚古代歴史館**」だ。今城塚古墳は、前方後円墳で古墳時代後期に築造され、同時期では国内最大級とのこと。被葬者は6世紀前半に没した継体天皇とするのが学会の定説だが、宮内庁はここから1.3km西にある茨木市の太田茶臼山古墳を継体天皇陵に治定しているため、大王陵としては例外的に発掘可能となったとのことである。2011年から誰でも自由に入って見学できる古墳公園になっており、我々もその辺りを散策いたしました。

昼食後は、最後の探訪⑥「**東寺**」でした。東寺は京都市の町中に鎮座する真言宗の根本道場であり、東寺真言宗の総本山でもある。文化財としては、平成6年に世界遺産に登録されているとのこと。もちろん国宝にも指定されている。講堂、金堂、そして五重塔の順に拝観する。金堂、講堂では金ピカの幾つもの仏像を拝ませていただく。

五重塔は高さ55mで木造塔では日本一、京都のシンボルとなっている。この日は秋季特別公開だったので、多くを拝観でき、誠にブラボー！

2日間に何と石川、福井、滋賀、大阪、京都の5府県のお宝を勉強させていただき感謝々々！安全運転の運転士さん、博学雄弁のガイドさん、同行の皆さん、本当にありがとうございました。



大阪府高槻市今城塚古墳・埴輪祭祀場

北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

北代縄文通信 第42号：編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター